議 事 録

会 議 名	第6期寒川町まちづくり推進会議 第5回会議		
開 催 日 時	令和元年9月10日(火) 午後3時00分～午後5時15分		
開 催 場 所	寒川町役場3階 議会第一会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員 半澤委員、中門委員、杉下委員（副会長）、落合委員、上山委員、大関委員、千葉委員（会長）、武藤委員、竹森委員、小堤委員、新保委員、平本委員、内野委員、菊地委員</p> <p>○欠席委員 相田委員</p> <p>○事務局 中島町民部長、池田協働文化推進課長、越原主査、鈴木主任主事、柏木主事 高橋企画政策課長、尾畑副主幹</p> <p>○傍聴者数 1名</p>		
議 題	<p>1 寒川町自治基本条例改正案について（資料番号1～3）</p> <p>2 パブリックコメント制度の見直しについて（資料番号4～9）</p>		
決 定 事 項	議事録承認委員：大関委員、新保委員		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合 その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事録承認委員の選出</p> <p>【池田課長】次第3の議事録承認委員の選出でございますが、従前どおり委員名簿の順にお願いいたしますと、今回は大関委員、新保委員を議事録承認委員として選出することになりますが、これにご異議はございませんでしょうか。</p> <p>【各委員】異議なし</p> <p>【池田課長】大関委員、新保委員よろしいですか。</p> <p>【大関委員】【新保委員】了解した。</p> <p>【池田課長】それでは、次第4以降の議事進行につきまして、推進会議規則第4条により千葉会長にお願いいたします。それでは会長、よろしくお願ひします。</p>		

4 議題

(1) 寒川町自治基本条例について

【千葉会長】お手元の次第には、先ほど少し触れましたが、2つの大きな議題を準備しております。1番目は寒川町自治基本条例改正案についてです。なお、一連の資料につきましては事前に皆様のお手元にお配りをして、目を通していただいているという前提で事務局からも説明がございまして、そういった観点に従ってご意見を賜りたいと考えております。よろしくお祈りを申し上げます。それでは、1番目の内容について、事務局から説明をお願いいたします。どうぞ。

【高橋課長】皆さん、改めましてこんにちは。企画政策課長の高橋と申します。議題の(1)自治基本条例の改正案につきまして、私から資料に基づいてご説明させていただきます。

<事務局より資料説明>

【千葉会長】ありがとうございました。本件は、我々が本来、まちづくり推進会議として関わります自治基本条例の改廃に関する内容でして、今後のまちづくりの計画についてもスケジュール的なところまで触れていただきましたが、我々が論ずべき基本的な内容は、自治基本条例の改廃について、いろいろな意見があれば、まとめて意見書等として町に提案するということと、パブリックコメントというのは、町政運営に対する町民の参画を促すという目的がございまして、そのことについての2つのテーマ、これは我々の二大テーマが1回に今回入ってきているとも言えると思います。資料3まで使った説明がございましたので、全般に対してご意見があれば、まず承ってまいりたいと思います。ご意見がございましたら、随時挙手をお願いいたします。どうぞ。

【中門委員】1つお聞きしたいというか、どういう位置づけになっているかお尋ねさせていただきたいのですけれども、自治基本条例はいろいろなところに町民という言葉がよく出てきて、町民といろいろ協働でやっていきましょうということになるのですが、町民の定義づけについて、今回いただいた資料番号9に「町民とは、自治基本条例第3条第1号に規定する町民を指し、町内在住・在勤・在学の者を対象としています」と書いている。在学というのは少し難しいかと思うのですけれども、在勤の方というのは寒川町で仕事をしている、つまり企業がある。とりわけ企業が寒川町を非常にいい町だと思ってくれて、継続的に寒川町にいてくれるというのが町にとっては非常に重要なことだと思います。自治基本条例上で、企業で働く町民と町の関係性や、どのようなアプローチの仕方を考えているのか、それを最初にお聞きしたいと思います。

【高橋課長】ありがとうございます。基本的に私どもが申し上げている町民という考え方も、この自治基本条例でいう町民の定義と全く同じでございまして。先ほど申し上げたワークショップへの参加対象者としても、基本的には町内在住・在勤・在学の方とさせていただいておりますので、

当然、現在のお住まいは寒川でなくても、町内の企業、事務所に勤務されている方については、分野別ワークショップの中でも、例えば商工業とか直接的な分野もありますし、あるいは他にご関心のある分野等にも町内企業にお勤めの方に、私どもとしてはぜひ関わっていただきたいと思っております。アプローチとしては、例えば各商工業者を通じて、例えばこういったワークショップ等のお知らせをしたり、各企業の組合さんにご案内をさせていただいたり、いろいろなやり方があると思っております。まだまだ取り組みが足りていない部分はあるのですが、そういう意味で、企業にお勤めの方についても町民の一部であるという考えのもとに、これからもっと様々なアプローチをしてみたいと思っております。

【中門委員】ありがとうございます。何でそんなことを言ったかという、他市町村の講座等を受けるときに、その規約や規定のなかで、在住・在勤・在学の方は申し込んでもいいけれども、それ以外の方は申し込んでだめだよというのがあるのですが、寒川の場合は比較的そういうのがなくて、緩やかだと思っていて、在住・在勤等にかかわらず、もう少し幅広くワークショップに申し込めるというのは開かれています。それと併せて、この町民というのはどういう関わり合いかなと思ってお聞きしました。

【高橋課長】基本的には在住・在勤・在学とよく示すのですが、私どものこのワークショップについては、やはり寒川を良くしたい気持ちのある方を出来るだけ、あまり狭くし過ぎずに、出来るだけゆかりのある方ですとか、本当に将来的には寒川に住みたいと思っていられるけど、今ご事情があってそうではない方とか、いろいろな方がいらっしゃると思うのですが、寒川町を良くしたいというような、寒川へのお気持ちがある方は極力ご参加いただきたいなと思っておりますので、ご事情はケース・バイ・ケースであると思っておりますので、ご相談に極力応じていきたいという考えを持って進めてまいりたいと思っております。

【中門委員】ありがとうございます。

【千葉会長】他にいかがでございますでしょうか。どうぞ、半澤委員。

【半澤委員】先ほど総合計画の策定の話についていろいろお伺いして、全く内容的には異議はないのですが、こういうまちづくり推進会議の中で、中身の部分までは論議しないのですか。

【高橋課長】このまちづくり推進会議の役割としまして、条例の中に定めておるのですが、基本的にはパブリックコメントなど、町民が町の町政にどういうふうに参加していくか、そういう町への関わり部分を担っていただいていると思っております。一方で、総合計画の中身の部分につきましては、組織でいうと先ほど申し上げた総合計画審議会でも議論をさせていただきました。ただ、これからは内容についても、適宜まちづくり推進会議に考えを伺って、そういった議論をしていただく必要も出てきているのではないかなと思っております。例えば町民参加の部分は条件が整ったけど、中身が追いついてきていないから、中身はこう

したほうがいいのではないかと、文字どおり車の両輪みたいな形でやっていくのがこれから目指すべき方向性なのかなと私は認識しておりますので、今回だけこういうお話を差し上げるのではなく、必要に応じて中身についても会長と調整をさせていただいて議論いただきたいというのが、私どもの考え方でございます。

【半澤委員】わかりました。

【千葉会長】今の意見に少し追加するようですが、私は総合計画審議会にも委員として出ておまして、前から、会議内容が重複している、あるいは各会議がどういう関係なのかよく分からないというようなことを何回か申し上げてきました。今回、第6期のまちづくり推進会議が発足するときに、早い時点でその辺の整理をしたいというようなことの提案もありまして、第3回の会議でそういう条例の改正まで持っていきたいと、こういうご提案がございました。

まず、自治基本条例の附属機関としてまちづくり推進会議が設置されていて、町民の町政参画に関することを論議する。一方で、具体的に町の計画を推進していくのが総合計画審議会なのかなという感覚を自分なりに組み立ててきたのですけれども、今回、改めて自治基本条例の第6条に位置づけをすると。まちづくり推進会議は附属機関として町の様子がどうなっているか知る必要があって、細かいことは審議会でやっていただくけれども、我々は全体を眺める立場を与えられていますので、そういう情報を会議の中では広く捉えて、このように進捗しているのかというようなことを確認することができる、そういう仕組みであるという考え方をしているのでしょうか。

【高橋課長】方向性としては、先ほど申し上げたとおり、会長におっしゃっていただいたとおりです。あとは、やはり他の審議会を含めて、内容が重複しているものもあるのではないかと、整理すべき時期に来ているのではないかとのご意見は、他方からもいただいておりますので、全体を見る中で、例えば一緒にしてしまう方が良いものもありますし、あえて別々にした方が良いものもあると思いますので、そこはコンパクトな町ですし、審議会もいたずらに不要なものを残し続けるということも当然いけないことだと思います。我々の考えもその都度きちんとご説明させていただきますので、その中で、例えば総計審と推進会議の関係性や、あり方というものも、こういうことが今の状況からするとベストなのではないかというように、きちんとその部分を含めて議論ができればなと思っております。方向としては、会長のおっしゃったとおりに認識しております。

【千葉会長】今のことを含めまして、何かございましたら、またお出しください。いかがでしょうか。

この辺の関係、位置づけとか、相互にどうするかというのについては、急にこの会議に出てきて、資料をもらって、意見を述べるというものなかなか大変なことではございまして、そのために菊地先生に参加をいただいております。全般的な流れも含めて、アドバイスのようなご発言がいただ

ければと思いますが、いかがでしょうか。

【菊地委員】 それでは、よろしいですか。

【千葉会長】 どうぞ。

【菊地委員】 ご指名いただきました。

1月に開催されました第3回会議で高橋課長から前回のようなご提案をいただいた際に申し上げたことが少し書かれておるのですが、今回それを受けましてご提案いただいた、第6条（町の責務）に書き込むという形での自治基本条例の改正のご提案をいただきました。論点といえますか、議論すべきことは多分2つぐらいありまして、1つは、まずこの自治基本条例というのは最高法規と呼ばれていて、町の憲法のような位置づけであると。この憲法が制定されて約15年が過ぎております。この期間、日本国憲法と同様に、一度も改正をされたことがございません。それで、総合計画を自治基本条例に位置づけるという形で今回初めての改正をします。そういう意味で、改正の、これはどちらかというところ、中身というよりは手続をどうするかということが1つあります。今後どうやって進めていくかというやり方の問題。それというのはおそらく次の議題のパブリックコメントとも関わってくると思うのですが、いろいろところで申し上げているのですが、最高法規といっても、条例というのは法律の範囲内でしか作ることができませんし、法体系上、条例というのは、憲法と法律の関係のように、憲法は必ず法律の上位に来るといような上下関係ではないのです。それでも最高法規と謳っている条例を改正する手続というのは、他の事務手続上の条例の改正の手続と果たして同じでいいのかというところが若干気になっております。次の議題で、例えばパブリックコメントの期間を1カ月から数カ月に延ばすべきではないのかというようにこの議論が次で出てくると思うのですが、けれども、おそらく他の条例より慎重な改正の手続を踏まなければいけないのではないかと考えております。

先ほど課長からお示しいただいた資料3に、来年の第2回定例会、6月議会に、テクニカルに言いますと、この前に議決事件を定める条例というのが作られて、基本構想が議決されて、同時に自治基本条例の改正を議会で諮られて議決される。そういう意味でスケジュールの出口が決まっています。それを考えると、自治基本条例の改正をすること自体には全く私は反対ではないのですけれども、手続を踏んでいくプロセスというのを少し丁寧にやらないといけないのかなということであると、若干スケジュールがもしかしたら窮屈になってくるかもしれないということが1つございます。

自治基本条例を所管しているまちづくり推進会議としても、今回の改正を機会に自治基本条例そのものを町民の方に理解していただく、我々はずいぶんそういった機会を使わせていただきたい。一方で、自治基本条例を改正するのは、初めての改正なのですよということを通じて、新しい総合計画が作られるということを知っていただくという意味では、お互いにとって、自治基本条例の改正と、これからの寒川の

まちづくりを形作っていく総合計画そのものを理解していただくという、うまい形で相乗効果を図りながらやっていかないといけないのかなというのが1点目でございます。

もう一つ、ややテクニカルな話で、資料1の3ページ目の下、今回ご提案いただきました、第6条(町の責務)に位置づけるということでのご提案。以前、課長と意見交換をさせていただいた際にも、このあたりではないのかということをし少し議論させていただきました。これは総合計画のほうでご検討されると思うのですが、今回の提案の「町は、まちづくりの指針を実現するため、総合計画に基づいて」という下線部分を追加するということになりますと、その前段に係るまちづくりの指針というのが第5条、お手元に配られた寒川町自治基本条例の4ページにまちづくりの指針というのが第1号から第8号まで書かれているわけですが、総合計画審議会で議論する基本構想あるいは総合計画の中身というものが、第6条にこういった形で落とし込む場合に、第5条の1号から8号までのまちづくりの指針との関係でいうと、これが目的で、それを達成するための手段として総合計画を策定することになると、その中身を規定してしまうのではないのかという心配があって、ここで書かれている1号から8号というのは、子供たちが地域社会に関わりながら健やかに成長できるまちづくり、非常に大きな話が書かれていて、外れることはないと思うのですが、総合計画審議会でこれから出てくる実際の中身との整合性をどうとっていくかというのを、見せ方も含めて少し議論の中身を規定してしまうのではないのかということをし若干危惧しておるところです。

その他についても何か、内部で特に問題ないということで議論になったのか、もし経緯がありましたら、教えていただければと思います。

【高橋課長】ありがとうございます。まず1点目の最高法規性の担保というところについては、今、菊地委員からご意見をいただいたとおり、これから複数回ワークショップをやっていきますので、その中で、今回は皆さんが考えた計画、新しい計画が自治基本条例の中にきちんと位置づけがされていくというような内容も、合わせ技で皆さんにこちらからご説明して認識も持っていただいた上で、そういう大事なものとして最高法規性が担保されるような手続的なところは、ご協力いただきながらフォローしていきたいと思っております。

それから、2点目のまちづくりの指針については、条例第5条の第1号から8号につきまして、これは私どもの認識ですと、ある意味で町としての永続的な価値が定められているのかなと考えております。2020プランという現行の計画については、分野としては大きく5つ設けておりまして、数としてもイコールではないのですが、例えば総合計画のこの内容は、まちづくりの指針でいうここにリンクしているという認識を現時点でも持っておりますので、そういう意味で、ここから大きく外れた内容は出てこないと思っておりますし、このことで分野を特定してしまうというような認識は私どもは持っておりません。総合計画の内容

が、まちづくりの指針のどこに当たるのかという関係性がきちんと見えるように進めていきたいと思っております。

【菊地委員】ありがとうございます。課長からのお話、ごもっともでして、1点目の手続については、企画政策課が行う総合計画のワークショップの中で総合計画をつくる契機に自治基本条例も改正していくんだという形で、総合計画の中身の議論とともに自治基本条例を改正していくんだということ、両方多分ご説明いただくと、手続上の踏むべきステップというのがより充実できるのかなと思っております。その上で、もう少し例えばパブコメの周知期間を延ばすべきではないかということも含めて、自治基本条例の改正手続のやり方を検討しないといけないのではないかなと思っております。

【千葉会長】ありがとうございます。他にご質問があれば。はい、どうぞ。

【杉下副会長】大きく2点あります。今の菊地先生のお話と高橋課長の両方に関わるところが1点目で、前段に幸福学のお話を今後入れていくというお話があったかと思うのですが、私もワークショップに2回出させていただきました。当然、総合計画は作るのが目的ではなく、あくまでも手段であって、新しい総合計画ができれば勝手に市民の生活が良くなるわけではなくて、それをどう活用していくかということが重要であって、例えば我々民間でも、経済動向指数というのがあって、アベノミクスが出来たから景気が良くなるのではなくて、年頭に日本商工会議所とか経済3団体で年始のときに企業の社長にインタビューして、そのとき、今年景気が良くなるか聞いて、その数の統計で、つまり社長の感覚なのだけど、新聞に出ると、企業のトップが言うとなかなか思っている我々も数値として見ているというようなものがあるわけです。それをもっと数値的に裏づけをしてやっていく幸福学というのを1つツールとして活用しましょうという案だと思っております。そうすると、先ほど話題にあった8つの指針が、もう少し町としてここ足りないよねとか、新たに第9が出てくるかもしれないですね。感覚的に必要そうだから新たに9番目、10番目が出てくるのではなくて、幸福学という統計的・学問的な裏付けがあって出しました、それについて町民の皆さんどうですかというプロセスになってくるのかなと思います。だから、なぜ幸福学というのを入れるかということはもう少し丁寧に説明をされたら、上から目線な言い方で申しわけないのですが、新しい学問だからこそ、どういうメリット、デメリットがあるか、もう少し分かりやすく説明していただくと、納得しやすく、また意見も出しやすくなるのかなと感じたので、今後工夫していただければというのが1点目。

もう一点が、これは少し厳しい意見になるかもしれないのですが、2回ワークショップに出させていただいて、これから多様な意見を出すところで、私も他市で総合計画の委員とか、こういう市民レベルの参加等もいろいろしてきた中で、全体的に一番大きく欠けているというのが財政的な担保なのです。いろいろな制度も「歳入なくして歳出なし」だと

思います。先日もワークショップに出たときに、こういうのがあればいいよね、やっぱり福祉充実、空きスペースとかコミュニティスペースみたいなのがあればいいねとか、いろいろ意見が出ましたが、その財源の担保は分かりませんよとなったら、どちらけになるわけですよ。夢を語る会ではないのです。他市でも実際にあったのは、そういうふうに語っていて、財政的には景気が読めないとか財政が厳しいと言われ、だったら最初からそんなこと言わせるなよ、となって。少し乱暴な言い方ですけれども。

説明資料でも、資料1に「社会経済環境等の変化に応じて柔軟に」と書いてあって、これも厳しくなったらカットしましょうという発想だと思うのです。そうではなくて、税収が増えたら新しくどんどんやりましょうという発想は多分潜在的に無いと思うのですよね。だから、財政として税収を上げるような意見を出す場を作ってもらいたいと思います。少し脱線するかもしれないけど、議会を見ても、議員もいろんな政策をやれと言うけど、税収を上げるような提案はほとんどしてこない。これでどうやってまちづくりを良くするのかと思うのです。税収と支出のバランスをちゃんと考えた中での実現性を持ってやっていかないと。

ただ、税収がこれだけ増えるところで、ではここまで出来ますという線引きも、優先順位が、全分野でばらばらなので。また難しいけれど、税収が増えるとか、人口が増えてそのうち労働人口も増えるというところでまた高齢者を支える若い世代が増えるということで福祉の行政負担も減ってくるというのものもあるわけではないですか。そういう全体的な支出に重きを置かれた今、総合計画の作り方というか、進め方も税収を確保するようなどころを入れてこなくてはいけないと思うし、私が見る限りでは少し見えにくいと思っています。総合計画審議会では議論しているのかもしれないですけども、その辺りの全体バランスを教えていただかないと、どこまで夢を語っていいのか。夢は語るものではなくて、私は実現するものだと思っているので、実現性のある発言もしていきたいですし、そういうところをしっかりと行政と町民が知恵を出し合って、1つでも多く、夢は夢ではなくて、実現するものに変えていくような議論を進められるような場づくりというか、進行していかなくちゃいけないと思うので、そこら辺はいかがでしょうか。

【千葉会長】大変迫力のある、我々まちづくり推進会議のなかなかのエネルギーを示せたかなと思います。事務局、これを受けて出来る範囲の中でお答えいただければありがたい。どうぞ。

【高橋課長】ありがとうございます。大きく、幸福学の関係と財政的な裏付けといいますか、財源の確保のご意見をいただいたかと思います。1点目の幸福学については、当然、宗教的なものではなくて、統計学に基づいた、学問的に裏づけのある考え方でございますが、今日は私が口頭で申し上げているだけです。当然のことながら非常に分かりにくい説明になってしまっているかと思っておりますので、この点については改めて、我々が取り入れようとしている考え方はこういうものであって、そ

れを取り入れたやり方をすると具体的にこういうふうな形になってまいりますというようなご説明を改めて次回させていただければなと思っております。

それから、財源的な裏付けについては、現行計画の2020プランも夢が言葉で書いてあるだけではなくて、当然に数値目標として、何を・どこまで・いつまでにやるかといったことですか、そのための財政計画として計画期間の各年度で歳入歳出を積み上げて作った計画に基づいて予算編成をしております。当然、そのやり方は新しい計画でも踏襲していきたいと思っておりますが、今お話しいただいたとおり、現時点でワークショップを何回かやりましたが、今まだ財政的な裏付けまでは皆さんに考えていただけていない状況でございます。確かにこのまま進んでしまうと、今副会長がおっしゃったように、いろいろ意見が出て、すばらしい内容で作り上げることが出来たとしても、財政的に出来るかどうか分かりませんという話になってしまうと思いますので、財政的な裏づけは最終的に計画の中で、どのタイミングにどう話をしていくかということとはきちんとしなければいけないかなと思っております。

先ほどの課題の中で、どんなに財政が厳しくても、皆さんで作上げた内容のこの部分だけは何が何でも予算を措置してやるというような計画にしたいと、そういう漠然とした考えはあるのですが、このお金の中でというのは誰がどう決めるのかというのがやっぱりあると思います。町が勝手に決めてしまったという話も極力避けたいので、ワークショップの中で、ある一定の段階で、これをやるには財政的には今どういう状況で、普通にいったらどこまで出来るのか少し考えてみましょう。例えば皆さんが10考えていただいた内容が、お金の裏づけからすると、どうしても7ぐらいまでしか出来ない。では10のうち7選ぶのをどうしたらいいかというようなところを改めて考えていただくとか、やり方はいろいろあると思いますが、ご指摘いただいた点は、抜け落ちてはいけない部分だと思っております。話していただくだけ話していただいて、結局出来るかどうか分からず、議論していただいた意味がそもそも無かったのではないかと。もう二度と町政になんか関わるものかとなってしまうのは絶対に避けなければいけないと思っておりますので、そこはまた皆さんからも、例えばこの市、町、村ではこういう良い手法があるよというようなことがもしあれば、我々もアンテナを張っておりますが、漏れてしまうこともありますので、教えていただきながら、寒川のまちづくりに関わった方が失望しないように我々としてもしっかりやっていきたいと思っておりますので、今後ともそういうことでよろしくお願い出来ればと思っております。

【杉下副会長】ありがとうございます。そのためにもう出来ることはスタートしている。今度、9月23日にいろいろ分野別にありますけど、私ならば、待っている必要が無いのでここで新たな税収を増やすためのワークショップを入れます。桃栗3年、柿8年ではないですけど、立案か

ら実効までに時間がかかるわけです。行政が全て税収上げることを考えるのではなくて、町民や事業所だって、移転しないためにどうするかとか、そのために行政としてこうしてほしいという意見などが出てくるかもしれないと思うのです。そういう内容を、定期的に毎回やるぐらいで、議員さんもそういう意見を、一般質問であれこれをやれと言うのではなくて、こうしたら税収が増えるというアイデア出してこい、というぐらいの感覚でいいのではと思います。そういう意見を吐き出す場所が少ないので、例えばパブリックコメントに持ってくるのだから一つのアイデアだと思っんです。そうすることによって今までと違うような使い方が出てくると思うので、ぜひそういうところもご検討いただきたいと思います。

【高橋課長】当然のことながら、出来ることは待つ必要はありませんので、少し検討したいと思います。よく行政改革の中で財源をどう生むか、無駄なものは無いかということは、我々も常にそういう視点は持ち続けておりますので、そういったテーマを設定して、やはり財源を生み出すということも皆さんとともに考えるのは必要だと思いますので、早速検討させていただきます。

【千葉会長】では、その辺りを次回以降で具体化を図るような方向でまた収拾いただきたいと思います。これについては提案があったわけですが、本会議として今日の時点でこのスケジュールで良いとか、何か決定することなどはありますか。事務局、どうぞ。

【高橋課長】今日の我々の提案を見ていただいて、こういう位置づけの場所、内容でいいのかということ、次回ご議論いただいて、改めてパブリックコメントに出す案もお示しして決めていきたいというのが私どもとしてのお願いでございます。もしご意見等があれば、私どもですとか協働文化推進課へ寄せていただければと思います。

【千葉会長】分かりました。協働文化推進課からはどうですか。

【池田課長】今、高橋課長のほうから説明がありましたが、今回、時間的な問題もございませけれども、あくまでもボールを投げさせていただいたということで、改正案につきましてもご提案を差し上げたところでございます。これについて、今ここですぐに結審いただくというのも難しいかなと思いますので、お持ち帰りいただいて、ご意見があれば、メールでも何でも結構でございます。随時いただきながら、次回会議を目指して結論付けをしていけたらと思っております。

【千葉会長】分かりました。論議そのものは、この内容を前向きに捉えていくということは方向性として間違っていないように思いますので、そういう流れがある中で、各自またご意見があれば持ち寄って、次回にはある程度この会議としての方向性を出すということにさせていただこうと思います。よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

【千葉会長】ありがとうございます。

(2) 寒川町自治基本条例について

【千葉会長】 それでは、時間もありますので、2番目のパブリックコメント制度の見直しについて、事務局から説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】 よろしくお願ひいたします。では、お手元の資料についてご説明させていただきます。

<事務局より資料説明>

【千葉会長】 ありがとうございます。初めて参加された方にとっても、これまでの流れに少し触れたようなもの、出てきた意見を集約した上で改めてこんなアイデアがあるという事務局の提案でございました。資料が少し多うございますけれども、内容が入り組んで、資料と資料が関連した中でご意見をいただくというようなことも結構でございますので、事務局から説明いただいた内容についてご質問があればお受けいたします。どうぞ。

【半澤委員】 資料番号7を見て、まだ何か少し字が多いような気がして。確かにぱっと見るとA4で1枚になっているのですが、現状と何がどう変わるのか、それに対してメリット何なのというのをもっと端的に、難しいけども極力1行に収めるくらいのまとめ方が良いと思う。あと、数字的な部分や金銭的なことを示さないと、やっぱりあまり関心を持たれないですよ。

【千葉会長】 どうですか事務局、今のご提案。これはやっぱり慣れもあるし、そういう事例を例えばどっかで見つけてきて、なるほどと思うようなものがあるとか、場合によっては半澤委員から少しお時間いただいて、指導を受けるとか、事務局だけで考えるのではなくて、そういうアイデアがある人は、頭の中に大事なものが多分詰まっているはずなので、今みたいなご意見を形にするところだよと、ここでおっしゃっていただくことだけではなくて、そういう場にご参加いただくというようなことだあって、このまちづくり推進会議の中でお互いに顔を知って、お互いの貯金を出し合うことになると思うので、そういう取り上げ方もあるかと思ひます。半澤委員に手をお借りするのは大丈夫でしょう？

【半澤委員】 任せてください。

それとは少し別の話ですが、例えばパブコメが必要な場合にもいろいろありますよね。パブコメへの意見が1件も無かったから問題とも、やはり思ひないです。内容が充実していれば、当然フィードバックも少ないですよ。だから、それを無いから悪いというのではなくて、やっぱり担当者も案件によって使い分けていいのではないかと思ひます。

【杉下副会長】 会長、関連事項なのですが。

【千葉会長】 どうぞ。

【杉下副会長】いいですか。関連事項と一緒に。今まさに半澤委員のおっしゃるように、私も文量を少なくして分かりやすくするとき、数値化・見える化ということで、数字でどう出していくかを考えます。資料番号7の2ページ目の下部で、給食調理方式の検証として、一番理想的なのは自校方式なのですよね。学校で作って、そのまま食べる。センターよりこっちの方が良く思える。だけど、それぞれに調理場を作って、給食調理員も配置しなくてはいけないので、やっぱり全国的にそれは今減っている。だから、理想論としては自校直営だけど、センター方式と親子方式の3手法があって、それぞれ財政負担としてどのぐらいありますよと。そのときのメリット、デメリットというのは作った方が良くと思います。だから、事務局が今回作ったこれが叩き台ですから、だから、こういうところで意見を出すときには、コンパクトにするときにもう一つ数字としてポンと出ると、これは良いけどお金が掛かりますよ。これは少し不便だけど安く済みますよとか、あとは県内で失敗した事例だけど第4の方法でお弁当の配達もありましたよね。そうやって示す内容は、逆にパブコメで出てくる意見かもしれないですよね。だから、コンパクトにするという、やっぱり文字だけでなく数値で出すことによって視覚的にも分かりやすいので、そういうのを今、半澤委員が言ったように、見える化で数値的・財源的な部分を示すことで、さっきの総合計画の話にも関連しますが、そういう造りにしていっていただけたらいいかなと思います。

【千葉会長】他に意見ありましたら。はい。

【池田課長】ありがとうございます。お二人から意見をいただきました。お金の部分で、今回の例にしました給食など、子供の生育に直接つながる案件でお金を前面に出しますと、お金の問題ではないだろうというご意見もいただきます。もちろん触れないわけにはいきませんが、そこに集中するわけにもいきません。そういったバランスの中で、よりよい書き方があればというお話になってくるのだろうと思います。今回モデルケースとして出したものは、事務局で手心を加えて、多少表現が緩くなっている部分はありますけれども、今後の課題になるのかなと思っております。

そもそもパブリックコメントというものの自体が、段階としては最終確認のものが大半です。案件が大きな問題であればあるほど、途中でいろいろな場でお話をさせていただいて外部の意見を吸い上げて、最終的には議会へもご報告申し上げて、取り入れる意見は全て取り入れて修正して、出てくるのがパブリックコメントの段階です。ですから、そこまでたたいて磨き上げた案に意見を求められる一般の方も、これは大変だろうなと私個人としては思っておるんですけども、そこをいただくのが手腕かなと考えておりますので、もう少しブラッシュアップしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【千葉会長】他にご意見があれば。どうぞ。

【中門委員】今お二人が言ったところで、特に加えたいところがあるわけ

ではないのですけれども、A4で4ページになって非常にいいなと思います。これぐらいのページで、概要版だと持ち帰るにもいいし、簡単に見られるなど。ただ、多分パブリックコメントの、ここでこれからマニュアル等を作ったときに、やはりここに入れてほしい内容はこれだということのある程度作って、さらに見やすさが必要だと思うのだけど、この概要版を見て、どんな意見を出せばいいか分かりませんよね。何が問題かというの、見ていってもよく分からない。こういう出し方というのは、案件の内容を示して知らしめたいという考えかと思うのですけれども、ここから何が欲しいかというのが一番大事だと思うのです。

もし特に聞きたいものがあれば、そこにつながるストーリーを作っておかないと、読み手は何か分からなかったということにつながると思います。

【千葉会長】 ありがとうございます。他には。大関委員どうぞ。

【大関委員】 個人的な意見としては、パブリックコメントは要らないと思っているのです。その立場で意見を言わせていただきますと、概要版資料の簡素化をすべきという形で今意見があったのですけれども、この内容は、案の本当にごく一部なのです。私はこの給食センターの計画を担当して作っていたのですが、この内容は全体の10分の1とか20分の1の内容なので、それを簡素化してしまうのであれば、あそこまで話す必要もないし、これだけで分かるような内容ならば、あんなに細かいパブリックコメントを書く必要もないので、本当に要らないのではないかなと思うのです。

だけど、本当に必要だとしてやっているのであれば、最低限これぐらいは必要なかなというのが自分の意見です。そうでないと、この一個一個の文章も、読み方次第でいろいろな意味にとれてしまうように思えるので、これ以上簡素にすべきではないと思います。最低限でもこのぐらいの資料であれば、興味のある人は全体資料を見ますし、どんなに簡素化しても興味が無い人は見ないので。

それと、パブリックコメントは大抵がクレームの処理になっているのが現状で、賛成意見はほとんど出てこないと自分は思っています。まれに数人、これ賛成ですよという方も出てきますけれども、こういう意見がありますよというのを集約するだけのものだと思っています。

【千葉会長】 ありがとうございます。次に上山委員、どうぞ。

【上山委員】 今まで出た意見と似ているのですけれども、まず文章が多いというのはすごく思います。それは概要版でもそうですが、マニュアルの方もすごく多いなと思いました。見ていて多分、文章としてマニュアルで示すのだったら、文章は多くて3行ではないかなと思います。なるべく文章部分は3行ぐらいにおさめて、細部は短文の箇条書きで、いわゆる取り扱いの手順書みたいな感じでまとめていかないと、職員さんも忙しいと思うので、読むことが大変でもう嫌になってしまって、少し大変なのかなと思うので、それは少し工夫していただければなと思いま

す。

パブリックコメントの概要版の例について、私は実際にこの給食センターのパブコメに意見をしたのですが、最初にとりあえず資料を貰っていただければいいやと公民館に行ってみたら、概要版と詳しい全体の資料と2つの資料がありました。概要版があるなんて親切だなと思って見たのですが、全然内容が分からなくて。それで詳しい資料をいざ見ようとしたら、すごく分厚い上に、持ち帰り禁止と書いてある。かと言って今ここで読むのも時間がなくて、結局ネットで資料を見ました。

なので、もし詳しいものを見たい場合にその施設でコピーしてくれるとか、工夫をしていただけるとありがたかったなと思います。それと、パブコメへの意見としてどう答えたらいいのかが分からない。概要版や詳しい資料を見ても、給食センター計画はこうやって決まったのは分かったけど、何に答えればいいのか、何の意見が欲しいのか分からなかったのです。広く意見を求めるというのが多分パブリックコメントだと思うのですが、その中でも、こういうところを特に聞きたいんだというのがもしあるのであれば、一問一答みたいな感じで、例えば賛成か反対かというのもそうだと思いますが、例えば中学校給食についてどう思いますかとか、答えやすいように、この説明書全部についての意見を聞くのではなくて、こういうポイントがあって、こういうポイントに対して詳しく具体的に聞けるような、答えてもらいやすいような、こういうところを答えてほしいのだというのが分かってもらえるような感じでやるといいのかなと。

はがきとかでも、質問1番、2番、3番として聞いて、4番その他で広くご意見あればというふうに設問してくれた方が答えやすくて、取っかかりがあるのではないかなと私は思いました。

【千葉会長】 ありがとうございます。次に菊地委員、どうぞ。

【菊地委員】 今いろいろご意見ありましたがけれども、私自身は事務局が作った資料7の概要版の作成例というのは、あくまでも例示だと理解しております。これを実際に作るのは協働文化推進課ではなく、大関委員がおっしゃった、教育委員会がこの1ページに何を詰めたいのかということを実際に詰めると、もしかしたら中身は変わってくるかもしれないということですね。多分こういうもののやり方というのはトライ・アンド・エラーをして、うまくいくかどうか、成功と失敗を積み重ねていって、どれが刺さるものなのかということを実験をしながら積み重ねていかないといけないと思うのです。もう完成している、これがいいものだというのは決まっているものではなくて、それはなぜかという、求める意見の内容が、今回は学校給食センターが事例であって上山委員や私など実際に子どもがいる立場だと、細かい内容よりも、いつから実施なのかみたいな情報が重要なのかなと。そういうところが多分要素として入ってこないといけないのかなというような気もしました。あるいは町民生活に直接関わらないような事例もたくさんあると思いますので、この1枚に何を収めるのかということとはそれぞれやはり工夫して、それ

で、意見が大幅に増えたとか、いろいろな意見が貰えたというのを、成功と失敗を積み重ねていく必要があると思うのです。そういうものを協働文化推進課としてストックして、もしかしたらまちづくり推進会議のような場で、例えば情報の出し方として非常に良かった例として、例えば賞状をあげるとか顕彰してあげるような形で、今回のマニュアルの中に、どれくらいの情報がとられたのか、あるいはアクセスがあったのかということ、いろいろなやり方がありますよということを入れていただいたので、そういった形でベストプラクティス（優れた手法）を組織の中で作り上げていくような形で今後やっていく、その始まりだと思うのです。一番良い例が、半澤委員にぜひご協力いただいて、この前の議題に戻りますけど、自治基本条例の改正、まさしくこれの第1号としてやってみたらどうかと。試金石として、このマニュアルを作って、各課にこれからパブコメをやる時はこれに則ってくださいよという形で協働文化推進課が各課にお願いする立場になりますので、まずは我々が考えるベストプラクティスというのを見せてやるというような意気込みで、ちょうどいいタイミングで自治基本条例の改正があるので、もしかしたら失敗もあるかもしれませんが、失敗したら、何がだめだったのかというのを後で検証出来るような形でこういったものを積み重ねていく、その一つのきっかけになればいいなということで、私自身は今回例示いただいたこの中身については、いろいろな今の委員のご指摘、その通りだと思いますけれども、まずは出発点として、そういった成果が出るかどうか分からないものというのは、後々に検証ができるような形で事業をやっていかないと、やりっ放し、あるいはうまくいったかどうか分からない、後で振り返って分からないというのが非常に多いので、まずは出発点として、自治基本条例の改正という良い機会があるので、我々がそれをやってみるというのも1つあるのかなというようなことが1点目です。

2点目は、先ほど上山さんがおっしゃったとおり、例えばこういった資料は今、町のホームページにPDFのリンクが張ってあると。おそらくホームページへのアクセス数というのは、パソコンだけではなくて、スマホからのアクセスというのも非常に多いですね。そのときに、スマホからのアクセスはPDFと非常に相性が悪いので、情報の出し方、アクセスの仕方、あるいはこの前、会長が「いいねボタン」をつけてもいいのではないかとというような形でおっしゃっていて、アクセスの数に対して「いいね」はどれぐらいかということ、どれだけ認知されているのかということ、それに対する弱い意味での認知、賛成がどれぐらいかということを含めて、どういう情報のとり方が一番良いのかということを含めて、各課、協働文化推進課が所管する自治基本条例の改正も含めて、例えば1年か2年やっていって、こういった良いものをストックしていって、こういうやり方をすればうまくいくというようなものを収集していくやり方をしたほうが良いのではないかと考えております。

【千葉会長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。どうぞ。

【竹森委員】パブリックコメントをどれだけ本気で集めたいのか少し分からないのですが、この資料9の手續に関する規則の中で、パブリックコメントの公表というのは、次に掲げる場所かホームページを見て下さいという規定があるのですけれども、これで決まりなのですか。

【事務局】規則上はそのように決まっております。

【竹森委員】私ども働く者の代表として意見をすると、この給食の関係の例でいえば、実際に対象者の方のお母さんですとかお父さんが働きながら、公民館や役場に来る時間はなかなか作れないと思うんです。なので、そこをもう少し柔軟に、例えばですけど、働く方が多くいる企業さんに頼むとか、例えばそこから発信するとか、そういったことが出来ればもう少しこういったコメントが集まると思うのですが、もう少し柔軟にそういった声を集められる場所、方法を考えたほうがいいのかなと思います。

【千葉会長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。どうぞ。

【内野委員】まず根本的な話、前回も多分したと思うのですが、パブリックコメントを集めて意見をお伺いしたいということだと思っておりますけれども、先ほどの課長からのお話だと、専門家と話し合っ、洗練された案に対してご意見をいただくのは非常に難しいとなると、パブリックコメント自体をやっている意味があるのかという疑問が正直出てくるのですね。

そして、たまたまこの給食の件だけではなく、やはり行政で決めたことを告知していますから、内容を見ると悪いことは書いていないのですよね。給食化したほうが良いよね、お弁当が要らなくなって楽になるよねとか、温かいのが食べられるのだったらそれが良いよねとか、老朽化しているよりも新しくなったほうが良いよね、と資料を読むと思うわけです。先ほど半澤委員からもお話ありましたけれども、メリットしか書いていないと思うのです。デメリットの部分もやっぱり記載していないと、判断は出来ないと思います。昔、図書館が建設されたときもそうでしたが、私がいろいろな方とお話する中で、何であんな箱物を作ったのだと、あれは本当に必要だったのかという話があったときに、町民の皆さんにパブリックコメントで賛成いただいていますと町は言ったのですが、それは良いことしか書いていないからなのではないかと。要は、きれいな資料館みたいなものがあつた方が良いですよとか、新しい図書館があつたほうが良いですよみたいなことしか質問票に書いていない。それは皆さん多分賛成に丸を思うのです。こういったデメリットがあるのかといった部分もあると思うので、その辺りを少ししっかりとやっていただいたほうが、より意見が、反対が多くなってしまふかもしれませんが、意見はいただけるのではないかなと思います。それと質問なのですが、意見提出方法にメール・FAX・郵送とありますよね。僕なんかもそうなのですが、フェイスブックとかインスタをやっています。そういったところで告知して見てもらうとなると、働き盛りの20代、30代の方は正直、なかなか時間が無いものですから、自

分のあいている時間に見ることが出来て、参画が出来る。少しは回答率が上がるのではないかなというのもあるので、そのあたりをご検討していただけるといいかなと思います。

【杉下副会長】資料も見れて、「いいねボタン」がそのまま押せる。さらにそこから回答に飛べるようになっていて良い。

【千葉会長】少し変な質問になりますけれども、資料5をつけているように、これは自治基本条例が出来て、その後、これを補完するといいますか、後で下支えする意味で、町民の皆さんから納得をもらっているよという具合に、パブコメ制度が後を追って補完するように作られたのかなという印象を受けるのですけれども、町民の皆さんの同意を得るのは大変大事なことでして、自治基本条例があるぐらいですから、それはそれで必要なのでしょうか、先ほど大関委員からも意見があったけれども、パブリックコメントって本当に必要か、みたいなことを論議したことはないのでしょうか。今になって変な話ですが。

つまり、パブリックコメントでオーケーももらっていますからという、要はアリバイ作りのようになってはいないかと。パブコメの必要性は認めますけれども、本当にパブリックコメントにつき込むエネルギーと、それに対する意見の集まりの悪さを考えたときにどうなのかと。今いろいろな意見が出ましたけど、私はスマートフォンもやりませんし、資料も難しいから読まないという具合の悪循環に陥るわけですし、年配の方は特にそうですし、次の町を背負う若い人、やっぱりその世代がどう見てくれるかというのは大変重要なことですし、『高座』のころ。」もそこを狙っているわけですから、この自治基本条例に携わりながら責任者としてこんなことを言うのも何ですけれども。

パブコメがあって担当課でばらばらに出てくるのをいつも自治会で回覧してくださいと言われると、しびれながら配つとるわけです。せっかく論議していて、良い方に行こうとしていますけれども、少し話をひっくり返すようですが、パブコメというのをもう一遍由来から考えてみたっていいのではないかなというようなことを、少し疑問というわけではないですけど、意見として出しておきたいと思います。

【池田課長】ありがとうございます。いろいろご意見いただきました。会長には毎回毎回パブコメの配布にご協力いただきまして、ありがとうございます。パブリックコメントなのですけれども、皆さんご承知のとおり、もともとは国の行政手続法です。これに則っている以上、ああいった形に……。

【千葉会長】ならざるを得ないと。

【池田課長】おっしゃる通りでございますが、そもそも県も含めまして、地方公共団体にパブリックコメントを行う義務はございません。行政手続法は地方公共団体を含めていませんので。ただし、止めてもいない。これが出来たときに、寒川の場合で申しますと、近隣でいけば藤沢という先進都市がありまして、そこに引っ張られた経過がございます。寒川もやろうではないか。同時に自治基本条例といったものが立ち上がりま

したので、その中に入れ込んでいったというのが正直なお話でございます。本当にやる必要があるのかというご意見ありました。大関委員のご意見丸ごと、行政の側にいる人間としては、よくおっしゃっていただいたというのが本心のところでございますが、これだけの内容にまとめるのは実際大変です。先ほどフェイスブックやインスタというお話もありましたけれども、告知の手段としては有効であると思います。ただ、内容については、ネットにつなげるのであればホームページを見てくださいと申し上げざるを得ません。というのは、元の計画の膨大な資料を考えた場合には、そうせざるを得ないのが現状です。簡単にまとめられればそれでいいのですが、ミスリードにならない程度に簡単にまとめるというのは非常に難しいと思います。後になって、そんなことどこに書いてあったのかという意見は必ず出てくると思います。

それと、パブリックコメントというのはそもそも反対意見が出てくるものだ和我々も思っております。何を聞きたいのかポイントを絞って、イエス・ノーで聞くというお話もありましたけれども、それはアンケートで十分だと思っております。パブコメについては、こういった計画を立てましたがどう思われますか、どこのポイントでも何でもいいですから書いてくださいというものと我々のほうでは認識しております。ですから、今回、給食のパブリックコメントをやりまして、相当数の意見出てきました。これは関心が高かったのだなという認識しております。関心が高ければこれだけ出てくるということが分かったことは良い材料だったと考えております。逆に今までのものは関心を持っていただけなかったのかなと。そこをどう引っ張っていくかというのは、皆さんの意見を参考にしながら、例えば見出しの立て方一つについても検討していく必要はあるのかなと考えております。ですが、やる必要があるのかどうか、そこまで立ち返るといふ話になりますと、自治基本条例との兼ね合いが少し出てまいりますので、そこについてはあまり触れないでおきたいと思っております。

【千葉会長】 ありがとうございます。次に杉下副会長、どうぞ。

【杉下副会長】 前段でありましたように、自治基本条例の第20条で重要な施策等々はパブコメの手段を実施するとあるので、そもそも論、私も大関委員と考えは同じで、前々回ぐらいまで、もともとは、なかなか仕事で役場にも来られないから、ネットがうまく普及してきたから、ネットで見ると意見を簡単にだせることがメリットだろうというところでパブコメが始まったのがそもそも論で、でも、そういうふうに簡単に意見を出せるといっても、やっぱり基本計画とかを読むのは難しいと思うのです。例えば大関委員が言ったように、3～4ページで理解出来るものではないし、我々だって自治基本条例を見直すといつて、これだけ会議をやったけれど我々は自治基本条例をちゃんと語れるかといつたら、大丈夫かなって思うのです。それを会議にも出ていない人が、これについて意見出してくださいといふのは、もっと分からないと思うのです。だから、自治基本条例の20条から削除してもいいのかなと思うので

す。今あるからやらなくてはいけないのではなくて、何で過去に縛られなくちゃいけないのか。これから新しい寒川のまちづくりに関して、どういう手法を使って、どういう進め方をするかということ議論するのが一番大事だと思うのです。そうしないと、パブコメを作るこの資料だって、紙がもったいないとか、それ以上にこれを作る事務局だって頑張って作ってくれて、そこは議論が今日どこかに行っちゃってしまってますけど、そういう見えない労務費としてすごいお金掛かっているわけですよ。だったら、その時間があったら、もっと違うこと、役場のほうでもやることあるでしょう。町民だって、もっと考える時間だってあるでしょうと思うのです。もう自治基本条例から、ざくっと抜いちゃってもいいのではないかと思います。

でもそれは出来ない、もう少しやらなくてはいけないと言うならば、今回事務局がこれをやってくれたのはすごくいいと思うのです。フレームワークとして、内容によっては4ページでいいかもしれないし、さっき大関委員が言ったように、もっとしっかり読んでもらわないと答えにくいといったら10ページでもいいと思います。あくまでフレームワークで、最低限これやってくださいというのをこの会議で作れたらいいと思います。

あとは、さっき上山委員が言ったように、必要なところにはイエス・ノーとか、アンケートみたいにやって、最後に自由意見欄を設ける。雑誌の読者アンケートも似た構成ですが、普通にやるだけだと皆やらないんです。プレゼントとか付けるわけです。パブコメも、例えばスポーツセンターの利用券とか、利用率が悪い施設なんかがあったとして、まず知ってもらうことによって、町民も使ってみたら思ったよりも良くて、利用率も上がるとか、インクルーシブではないですけど、複合型になると思うんですね。

どうしてもパブコメをすぐに、来年からナシというのは出来ないと思うので、だったら、そういうような仕組みとか仕掛けというのを作っていくべきだと思うのです。パブコメはこっちでやります、こちらは利用率上がりませんというのではなくて、そこを全体的にやるというのがまちづくりだと思います。最初の一步が難しいけど、アンケートを出すことによって何かあるよねとかいうところで、例えば学校の給食にこだわるわけではないんですけど、だったら、意見を出してくれた人は学校の給食の試食会に参加できますよとか、普段出来ない特別感とか、さらに実際食べることによって、さらにいいよねとか、なるほどというのも見えてくるとか、そういうのもあると思います。

【千葉会長】ありがとうございます。次に、中門委員どうぞ。

【中門委員】私はパブリックコメントは、やっぱり必要だなと思っています。私は今、町のいろいろな環境活動だとか、いろいろなことをやっていてそこにも繋がっているのですが、町民が自分たちの意見を言って何かを変えていこうというチャンスは少なくともなければいけないと思うのです。そのためには、パブリックコメントに代わるものがあれば無

くなくてもいいと思うのですけれども、それが無い以上はやはり必要だ
と思います。やっぱり意見を町民からもらっていくという姿勢を行政が
やっていかないと良くないのではないかと、事務的な手間など大変だとは
思うのですけれども、マニュアルやひな形を作って労力を掛けないよう
に知恵を絞ってやっていっていただきたいなと思います。

【千葉会長】ありがとうございます。では、菊地委員どうぞ。

【菊地委員】池田課長がおっしゃったとおり、パブリックコメントはも
ともと行政手続法という国のレベルで作られたものです。国の省庁の審議
会を頭の中に浮かべていただきたいのですけれども、国と自治体で決定的
に違うのは、国のレベルでの意思決定、審議会などの意思決定には、
公募委員というのは、私が知る限りでは有りません。ですから、何かを
意思決定していく入り口のところで国民の意見が全く入ってこないの
で、作られた出口の案に対してパブリックコメントを求める。例えば最
近ですと、例の韓国の貿易の政令でホワイト国からの除外に対するパブ
リックコメントというのが、国民の意見というのが出てきました。ただ、
その案を作る時点では国民の意見というのは入っていないのです。一
方、例えば大関委員が関わっていた学校給食のような大きなテーマとい
うのは、この委員会もそうですけれども、公募の委員がいる審議会が作
られて、その前にいろいろなワークショップをやる。いろいろなところで
説明会をやって、いろいろな意見を聞く。その上で作られた、ある意味
丸められた意見が出てくるわけです。それに対してパブリックコメント
でなかなか意見しづらいというのはおっしゃるとおりですけれども、
私自身は自治体でパブリックコメント、自治基本条例に入っている意味
というのは、例えばここで作る、今回4名の公募委員の方がいらっしゃ
います。ある意味住民の意見として取り上げて何かを作るわけですけれ
ども、ここで作った意見が必ずしも他の住民の意見と一致しているかど
うかというのは分からないし、ですから、住民の意見に基づいて作った
案に対して別の住民から意見をいただく。この意見を受けるというのは、
行政側ではなくて、我々なのです。そういった形で町民の多様な意見
というものを、私の意見も町民の意見ですけれども、パブリックコメ
ントから出てきた案に対する反対というのもその人が考える町民の意
見ということで、そういった多様な意見というもの、町民の意見とを吸
い上げる仕組みだと私は考えています。ですので、これを受ける側とい
うのは行政ではなくて、こういったパブコメをする案件、重要な案件と
いうのは、必ずこういった審議会とか、いろいろな住民参加の委員会と
いうのが作られていて、そこに公募委員というのが大抵入っています
ね。ですので、そういった公募委員を含めて、これを受けるのは我々委
員で、それをどう受けとめるかということも我々が考えることだと思
うのです。

前段の議論にあった資料3の31番あたりに記載がありますが、自治基
本条例を改正すべくパブコメをやると。半澤委員に一生懸命頑張ってもら
って、これを作って、いろいろな意見が出てきます。それに対する回

答を、多分事務局が回答案を作るのですけれども、最終的にその回答に責任を持つのは、我々まちづくり推進会議なのです。ですので、そういった形で、多様な住民の意見を交わしていく場所をつくって、最終的な案に反映させていくというのが多分寒川町の自治基本条例におけるパブリックコメントの理念だと思っていますので、削除したいというような意見もあると思うのですけれども、それもまたパブコメに掛けないといけないジレンマがあったりするわけですが、そういう形で少し、今回事務局が考えていただいたので、しかも我々が持っている材料を実際にパブコメに掛けるというので、少し我々としても当事者として、パブコメでいかに町民から意見を貰うのかということに少し関わっていくいい機会になるのではないかなと思っています。

【千葉会長】 ありがとうございます。

パブリックコメントについては事務局がたたき台を作ってくださいまして、いろいろな意見がありました。次回以降のスケジュールについても少し触れられましたが、その中で今回の意見をどのような形にまとめて、次回それに対する考え方をどう整理するかと。その段階で委員の一人を例えばその中に入れて作るのかどうかも含めて、事務局の方でまとめと今後の対応をお考えいただきたいというふうにしたいと思いますが、よろしいですか、事務局。どうぞ。

【事務局】 その方向で検討しますけれども、相談をする可能性が高いと思いますので、よろしく願いいたします。

【千葉会長】 はい。そのときには委員に声をかけて、こんな作業をしたいので、少しご足労願えないかと、そういうお願いをするということ、この中の全員どなたでも、事務局からそういう声がかかったら快くお受けいただきたいということを私の立場からお願いして、この案件につきましては区切りをつけたいと思います。はい、どうぞ。

【池田課長】 済みません、最後に私から。まさしく皆さんからいただいた意見等でございます、菊地先生ありがとうございます。それとあと、中門委員から出た、広聴の手段の一つとして当然あるべきだろうというご意見ももっともだと思います。もっと他に意見を吸い上げる、しかも的確に簡潔に吸い上げる手段があれば本来要らないのかなとも思うのですが、国がやっているからやるのではなくて、もっとその存在意義を考えろということでございます。本当にそのとおりだと思います。そのあたりも含めまして、本来は、これが本当に必要なのか、やるとすればもっとオリジナリティーを取り入れたもの、国のフォーマットによるものではなく、何か別の方式でやれないか、そのあたりまでできれば踏み込んでご議論いただきたいところなのでございますが、今回に限って言えば、あと2回ほどしか会議がございませんので、もう少し手短かなところでの改正という形でまとめさせていただきたいと思います。今回は給食を例にとってしまった関係で、作成例の方に目が行ってしまったところがあるかと思いますが、例えばこれ、パブコメをやめるという話になりますと、自治基本条例を変えますから、パブコメをや

	<p>めることについてのパブコメというようなこともまた出てまいりますので、なかなかそこまで行くと大変だと思います。内容につきまして、具体例を事務局でも練るという今話がありましたけれども、ここから先はメールなり、もしくはお手紙なりで皆様と少しやりとりをしながら、お知恵を拝借したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>【千葉会長】 ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日議題に上がっております2つの案件につきまして、それぞれまとめをいたしました。次回に備えて、また事前に資料等はお配りすることになると思っておりますので、お目通しいただいて、次回参加いただきたいと思ひます。</p> <p>< 5 その他は特になし ></p> <p>6 閉会</p> <p>【千葉会長】 では、6番目の閉会、杉下副会長からお願いいたします。</p> <p>【杉下副会長】 省略</p> <p>～午後5時15分閉会～</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○資料番号1 自治基本条例への総合計画の位置づけ等について ○資料番号2 寒川町次期総合計画策定スケジュール（概要版） ○資料番号3 次期総合計画策定スケジュール ○資料番号4 パブリックコメント制度見直しに係るスケジュール（案） ○資料番号5 パブリックコメント制度の見直しに係る論点整理表 ○資料番号6 パブリックコメント資料概要版フォーマット（案） ○資料番号7 パブリックコメント資料概要版フォーマット（案・作成例） ○資料番号8 パブリックコメント手続実施マニュアル ○資料番号9 パブリックコメント手続に係る規則（解説付）
<p>議事録承認委員及び議事録確定年月日</p>	<p>大関委員、新保委員（令和元年 10月23日確定）</p>